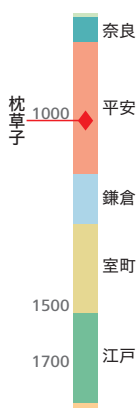


枕草子まくらのそうし

清少納言せいせうなごん



五月ばかりなどにさつき

五月ばかりなどに山里に歩ありく、いとをかし。草葉も水もいと青く見えわたりたるに、上うへはつれなくて、草生おひ茂しげりたるを、長々と、たたざまに行けば、下したはえならざりける水の、深くはあらねど、人などの歩あゆむに、走りあがりたる、いとをかし。

左右にある垣かきにあるものの枝などの車1の屋形2などにさし入るを、急ぎとらへて折らむとするほどに、ふと過ぎてはづれたるこそ、いと

口惜くちをしけれ。蓬3の、車おに押しひしがれたりけるが、輪4の回まはりたるに、近ううちかかりたるもをかし。

(第二〇七段)

1 車 牛車ぎゅうしゃ。

2 屋形 牛車で人が乗る部分。

3 蓬 キク科の多年草。山野に自生し、香りがある。

4 輪 牛車の車輪。